

病院新聞

創刊号
夏号

病院新聞
発行によせて



院長 矢野 孝

病院に課せられている最も重要な役割は、市民の皆様から寄せられる、医療に関わるすべての要望に応えるにはどうすれば良いか常に考え、それを実行することです。

しかし、時として病院側の説明が不十分であったり、皆様からの要望の集約が不適切なために、この目的を達成するのに困難を感じる場合があります。

今回、病院新聞を発行することによって、市民の皆様との意思の疎通が図られ、問題解決への道が明確になることを心から期待しております。

いよいよよ夏です。健康管理は十分に

子供の病気は感染症が多いため季節によって流行があります。

風邪といえ冬にかかるものというイメージをお持ちですか？

子供の場合は、夏かぜと呼ばれる風邪をひきやすく、多くは熱があっても咳や鼻汁も軽く、数日で熱も下がります。時々、目が赤い子、のどや手足に小さな水疱が出る子があります。これらはプール熱、ヘルパンギーナ、手足口病かもしれません。また、髄膜炎や食中毒がはやるのもこの時期です。

お子さんが楽しい夏を過ごされるために、食前やトイレ後の手洗い、うがい、食品、食器類の清潔管理などを心がけたいものです。



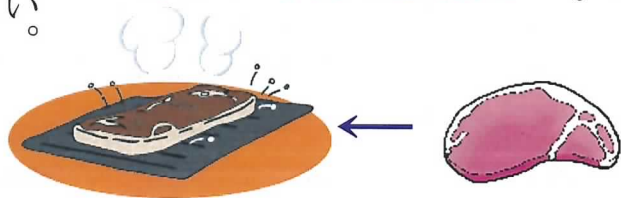
小児科医師 城所博之

食中毒の予防

蒸し暑くなるこれからの季節、食中毒の発生が心配されます。家庭での食中毒予防の3原則は、「細菌をつけない・殺す・増やさない」です。そこで予防の六つのポイントとして

- 1 購入時
新鮮な物を。消費期限確認。
- 2 家庭での保存時
すぐ冷蔵・冷凍庫へ。
- 3 下準備時
手洗いと清潔な調理器具。
- 4 調理時
十分な加熱（75℃で一分以上）。
- 5 食事時
早めに食べる。
- 6 残った食品
清潔な容器に保存、再加熱。

早めに十分な加熱を



（参考：内閣府食品安全委員会）
消化器科医師 妹尾恭司

以上を心がけてください。